



# ラックサーバポリシーおよびプロファイルの管理

この章は次のトピックで構成されています。

- [ラックサーバポリシー, 1 ページ](#)
- [ラックサーバプロファイル, 33 ページ](#)

## ラックサーバポリシー

ラックサーバポリシーは、Cisco UCS Director でラックサーバのさまざまな属性の設定を定義するための主要なメカニズムです。これらのポリシーは、ラックサーバ間で設定の一貫性と再現性を実現するのに役立ちます。包括的なポリシーセットを定義して使用することにより、類似した設定が多数のラックサーバ全体に適用されるため、一貫性、制御、予測可能性、および自動化を改善できます。

次のワークフローでは、Cisco UCS Director でサーバポリシーを使用する方法を示します。

- 1 BIOS ポリシーまたはNTP ポリシーなどのサーバポリシーを作成します。次のいずれかの方法でポリシーを作成できます。
  - a 新しいポリシーを作成します。さまざまなポリシータイプ、および新しいポリシーの作成については、「[サーバポリシーの作成, \(2 ページ\)](#)」を参照してください。
  - b サーバの既存の設定からポリシーを作成します。サーバの既存の設定からポリシーを作成する方法については、「[既存の設定からのポリシーの作成, \(4 ページ\)](#)」を参照してください。
- 2 サーバにポリシーを適用します。ポリシーの適用方法については、「[ポリシーの適用, \(32 ページ\)](#)」を参照してください。
- 3 ポリシーに関する次のタスクを実行できます。

- a 特定のポリシーにマッピングされているサーバのリストを表示します。これらのタスクの実行については、「[サーバポリシーの共通タスク, \(5 ページ\)](#)」を参照してください。
- b ポリシーを編集して値を変更します。
- c 不要になったポリシーを削除します。
- d ポリシーを複製して同様の値を使用します。
- e 複数のポリシーを1つのサーバプロファイルにグループ化します。プロファイルの適用方法については、「[ポリシーの適用, \(32 ページ\)](#)」を参照してください。

## サーバポリシーの作成

新しいサーバポリシーを作成する場合は、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1** メニューバーで、[ポリシー (Policies)] > [物理インフラストラクチャ ポリシー (Physical Infrastructure Policies)] > [ラック サーバ (Rack Server)] の順に選択します。
- ステップ 2** [ハードウェア ポリシー (Hardware Policies)] タブを選択します。
- ステップ 3** [追加 (Add)] をクリックします。
- ステップ 4** [ポリシーを追加 (Add Policy)] ダイアログボックスで、ドロップダウンリストからポリシータイプを選択します。
- ポリシータイプに基づいたポリシーの作成に関する詳細は、以下の表からポリシータイプを選択してください。これらのポリシーの設定に必要なさまざまなプロパティは、『[Cisco UCS C-Series Servers Integrated Management Controller GUI Configuration Guide](#)』で確認できます。このマニュアルの関連する項を各ポリシータイプの横に示しています。

ポリシー	このマニュアルに記載されている手順	『Cisco UCS C-Series Servers Integrated Management Controller GUI Configuration Guide』の項
BIOS ポリシー	<a href="#">BIOS ポリシーの作成, (6 ページ)</a>	<i>Configuring BIOS Settings</i>
ディスク グループ ポリシー	<a href="#">ディスク グループポリシーの作成, (7 ページ)</a>	<i>Managing Storage Adapters</i>
FlexFlash ポリシー	<a href="#">FlexFlash ポリシー, (8 ページ)</a>	<i>Flexible Flash コントローラの管理</i>
IPMI over LAN ポリシー	<a href="#">IPMI Over LAN ポリシーの作成, (12 ページ)</a>	<i>Configuring IPMI</i>

ポリシー	このマニュアルに記載されている手順	『Cisco UCS C-Series Servers Integrated Management Controller GUI Configuration Guide』の項
LDAP ポリシー	<a href="#">LDAP ポリシーの作成</a> , (13 ページ)	<i>Configuring the LDAP Server</i>
レガシーブート順序ポリシー	<a href="#">レガシーブート順序ポリシーの作成</a> , (15 ページ)	<i>Server Boot Order</i>
ネットワーク設定ポリシー	<a href="#">ネットワーク設定ポリシーの作成</a> , (16 ページ)	ネットワーク関連の設定
ネットワークセキュリティポリシー	<a href="#">ネットワークセキュリティポリシーの作成</a> , (18 ページ)	<i>Network Security Configuration</i>
ネットワークタイムプロトコルポリシー	<a href="#">NTP ポリシーの作成</a> , (19 ページ)	<i>Configuring Network Time Protocol Settings</i>
高精度ブート順序ポリシー	<a href="#">高精度ブート順序ポリシーの作成</a> , (20 ページ)	<i>Configuring the Precision Boot Order</i>
RAID ポリシー	<a href="#">RAID ポリシーの作成</a> , (21 ページ)	<i>Managing Storage Adapters</i>
Serial Over LAN ポリシー	<a href="#">Serial Over LAN ポリシーの作成</a> , (23 ページ)	<i>Configuring Serial Over LAN</i>
SNMP ポリシー	<a href="#">SNMP ポリシーの作成</a> , (24 ページ)	<i>Configuring SNMP</i>
SSH ポリシー	<a href="#">SSH ポリシーの作成</a> , (25 ページ)	<i>Configuring SSH</i>
ユーザポリシー	<a href="#">ユーザポリシーの作成</a> , (26 ページ)	<i>Configuring Local Users</i>
VIC アダプタポリシー	<a href="#">VIC アダプタポリシーの作成</a> , (27 ページ)	<i>Viewing VIC Adapter Properties</i>
仮想 KVM ポリシー	<a href="#">仮想 KVM ポリシーの作成</a> , (28 ページ)	<i>Configuring the Virtual KVM</i>
vMedia ポリシー	<a href="#">vMedia ポリシーの作成</a> , (29 ページ)	<i>Configuring Virtual Media</i>

ポリシー	このマニュアルに記載されている手順	『Cisco UCS C-Series Servers Integrated Management Controller GUI Configuration Guide』の項
ゾーン分割ポリシー	ゾーン分割ポリシーの作成、(30 ページ)	『Cisco UCS C-Series Integrated Management Controller GUI Configuration Guide for C3260 Servers』の「Dynamic Storage」。

### 次の作業

サーバにポリシーを適用します。ポリシーの適用方法については、[ポリシーの適用](#)、(32 ページ) を参照してください。

## 既存の設定からのポリシーの作成

以前に設定したサーバを使用してポリシーを作成することもできます。サーバの既存の設定を再利用することで、類似した設定の作成にかかる時間と手間を削減できます。



(注) サーバの現在の設定からポリシーを作成する場合、パスワードフィールドはサーバから取得されません。

サーバの現在の設定からポリシーを作成する場合は、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1 メニューバーで、[ポリシー (Policies)] > [物理インフラストラクチャ ポリシー (Physical Infrastructure Policies)] > [ラック サーバ (Rack Server)] の順に選択します。
- ステップ 2 [ハードウェア ポリシー (Hardware Policies)] タブを選択します。
- ステップ 3 [追加 (Add)] (+) をクリックします。
- ステップ 4 [追加 (Add)] ダイアログボックスで、ドロップダウン リストからポリシーを選択し、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 5 表示されるダイアログボックスで、[サーバの現在の設定からポリシーを作成する (Create policy from current configuration of the server)] チェックボックスをオンにして、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 6 [サーバの詳細 (Server Details)] ダイアログボックスで、[サーバの現在の設定からポリシーを作成する (Create policy from current configuration of the server)] チェックボックスをオンにします。次の 2 つの方法でサーバの詳細を使用できます。

- a) [手動でサーバの詳細を入力する (Enter Server Details Manually)] チェックボックスをオンにして、次のフィールドに入力します。
- 1 [サーバ IP (Server IP)] フィールドに IP アドレスを入力します。
  - 2 [クレデンシャルポリシーの使用 (Use Credential Policy)] チェックボックスをオンにして既存のポリシーを選択し、[クレデンシャルポリシー (Credential Policy)] ドロップダウンリストからポリシーを選択するか、[クレデンシャルポリシー (Credential Policy)] ドロップダウンリストの横にある [+] をクリックして、[クレデンシャルポリシー追加フォーム (Credential Policy Add Form)] ダイアログボックスで詳細を入力して新しいポリシーを作成します。
  - 3 [ユーザ名 (User Name)] フィールドにサーバのログイン名を入力します。
  - 4 [パスワード (Password)] フィールドにサーバのログインパスワードを入力します。
  - 5 [プロトコル (Protocol)] ドロップダウンリストから [http] または [https] を選択します。
  - 6 [ポート (Port)] フィールドに、選択したプロトコルに関連付けられたポート番号を入力します。
- b) [選択 (Select)] をクリックして、設定を取得するサーバを選択します。

**ステップ 7** [次へ (Next)] をクリックします。  
[メイン (Main)] ダイアログボックスに戻ります。ウィザードのプロンプトに従って、ポリシーの作成を続行します。各ポリシーのフィールドは、システムで作成するポリシーによって異なります。

## サーバポリシーの共通タスク

既存のポリシーのサーバマッピングの詳細を編集、削除、複製、または表示するには、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1** メニューバーで、[ポリシー (Policies)] > [物理インフラストラクチャポリシー (Physical Infrastructure Policies)] > [ラックサーバ (Rack Server)] の順に選択します。
- ステップ 2** [ハードウェアポリシー (Hardware Policies)] タブを選択します。
- ステップ 3** 左側のペインでポリシーを展開し、ポリシーを選択します。
- ステップ 4** ポリシーをサーバまたはサーバグループに適用するには、[適用 (Apply)] をクリックします。プロファイルの適用方法については、[ポリシーの適用](#)、(32 ページ) を参照してください。
- ステップ 5** (任意) [詳細の表示 (View Details)] をクリックすると、適用したポリシーのステータス、ポリシーを適用したサーバの詳細など、選択したポリシーの詳細が表示されます。ポリシーが正常に

適用されていない場合は、[ステータスメッセージ (Status Message)] カラムにエラーメッセージが表示されます。

- ステップ 6** (任意) ポリシーを変更するには、[プロパティ (Properties)] をクリックして必要なプロパティを変更します。  
ポリシー名を変更する場合は、すでに存在する名前を指定しないようにしてください。
- ステップ 7** (任意) ポリシーを複製するには、[複製 (Clone)] をクリックして選択したポリシーの詳細を新しいポリシーにコピーします。
- ステップ 8** (任意) ポリシーを削除するには、[削除 (Delete)] をクリックします。[ポリシーの削除 (Delete Policy)] ダイアログボックスで、[選択 (Select)] をクリックして削除するポリシーを選択します。[選択 (Select)] と [送信 (Submit)] をクリックします。  
選択したポリシー (複数可) がサーバに関連付けられていても削除できます。プロファイルに関連付けられたポリシーを削除しようとすると、エラーが発生します。
- ステップ 9** 状況に応じて、[送信 (Submit)] および [閉じる (Close)]、またはいずれかをクリックします。

## BIOS ポリシーの作成

BIOS ポリシーは、サーバの BIOS 設定を自動化します。サーバまたはサーバの集合のニーズに合う特定の BIOS 設定グループを含む BIOS ポリシーを 1 つ以上作成できます。サーバの BIOS ポリシーを指定しない場合、BIOS 設定は新しいベアメタルサーバのデフォルト値か、Cisco IMC を使用して設定した値のままになります。BIOS ポリシーを指定すると、それまでにサーバに設定したすべての値はポリシーで指定した値に置き換えられます。

BIOS の各種プロパティの設定に関する詳細は、『[Cisco UCS C-Series Servers Integrated Management Controller GUI Configuration Guide](#)』の「[Configuring BIOS Settings](#)」の項を参照してください。

BIOS ポリシーを作成するには、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1** メニューバーで、[ポリシー (Policies)] > [物理インフラストラクチャポリシー (Physical Infrastructure Policies)] > [ラックサーバ (Rack Server)] の順に選択します。
- ステップ 2** [ハードウェアポリシー (Hardware Policies)] タブを選択します。
- ステップ 3** [追加 (Add)] (+) をクリックします。
- ステップ 4** [追加 (Add)] ダイアログボックスで、ドロップダウンリストから [BIOS ポリシー (BIOS Policy)] を選択し、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 5** [ポリシー名 (Policy Name)] フィールドに名前を入力して [次へ (Next)] をクリックします。  
[サーバの現在の設定からポリシーを作成する (Create policy from current configuration of the server)] チェックボックスをオンにしてから、[次へ (Next)] をクリックすることもできます。この場合は、[サーバの詳細 (Server Details)] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボック

スでのタスクの実行については、[既存の設定からのポリシーの作成](#)、(4 ページ) を参照してください。

(注) Cisco UCS Director の一部のプロパティまたは属性は、特定の Cisco IMC バージョンを実行しているサーバに適用できない場合があります。Cisco IMC サーバで使用できないプロパティは、プロパティフィールドで[プラットフォームデフォルト (Platform-Default)] と表示されます。

- ステップ 6** [メイン (Main)] ダイアログボックスで、[ブート オプションの再試行 (Boot Option Retry)]、[POST エラー停止 (Post Error Pause)]、[TPM サポート (TPM Support)] ドロップダウンリストなど、メインの BIOS プロパティの値を選択します。
- ステップ 7** [詳細設定 (Advanced)] ダイアログボックスで、ドロップダウンリストから BIOS プロパティ値を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 8** [サーバ管理 (Server Management)] ダイアログボックスで、ドロップダウンリストからサーバプロパティ値を選択し、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 9** [送信結果 (Submit Result)] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。

## ディスクグループポリシーの作成

ディスクグループポリシーを使用して、仮想ドライブに使用する物理ディスクを選択し、さらに仮想ドライブに関連付けられた各種属性を設定できます。

ディスクグループポリシーはディスクグループの作成方法と設定方法を定義したものです。このポリシーで、仮想ドライブに使用する RAID レベルを指定します。1つのディスクグループポリシーを使用して、複数のディスクグループを管理できます。1つのディスクグループポリシーを複数の仮想ドライブに関連付けることができます。この場合、仮想ドライブは同じ仮想ドライブグループスペースを共有します。RAID ポリシーの別の仮想ドライブに関連付けられたディスクグループポリシーは、異なるディスクグループポリシー間で物理ディスクを繰り返し使用しません。RAID ポリシーの詳細については、[RAID ポリシーの作成](#)、(21 ページ) を参照してください。

ディスクグループの各種プロパティの設定に関する詳細は、『[Cisco UCS C-Series Servers Integrated Management Controller GUI Configuration Guide](#)』の「*Managing Storage Adapters*」の項を参照してください。

ディスクグループポリシーを作成するには、次の手順を実行します。

## 手順

- 
- ステップ 1** メニューバーで、[ポリシー (Policies)] > [物理インフラストラクチャ ポリシー (Physical Infrastructure Policies)] > [ラックサーバ (Rack Server)] の順に選択します。
- ステップ 2** [ハードウェア ポリシー (Hardware Policies)] タブを選択します。
- ステップ 3** [追加 (Add)] (+) をクリックします。
- ステップ 4** [追加 (Add)] ダイアログボックスで、ドロップダウンリストから [ディスクグループポリシー (Disk Group Policy)] を選択し、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 5** [ポリシー名 (Policy Name)] フィールドに名前を入力して [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 6** [仮想ドライブの設定 (Virtual Drive Configuration)] ダイアログボックスで、仮想ドライブのプロパティを選択して [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 7** [ローカルディスクの設定 (Local Disk Configuration)] ダイアログボックスで [+] をクリックし、ローカルディスクの設定を参照するエントリを追加して、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 8** [送信結果 (Submit Result)] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。
- ステップ 9** [メイン (Main)] ダイアログボックスで [送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 10** [送信結果 (Submit Result)] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。
- (注)
- サーバの現在の設定からディスクグループポリシーを作成することはできません。
  - RAID ポリシーをサーバの現在の設定から作成すると、ディスクグループポリシーもサーバの設定から自動的に作成されます。
- 

## FlexFlash ポリシー

FlexFlash ポリシーを使用することで、SD カードを設定し、有効にすることができます。

各種プロパティの設定に関する詳細は、『[Cisco UCS C-Series Servers Integrated Management Controller GUI Configuration Guide](#)』の「[Managing the Flexible Flash Controller](#)」の項を参照してください。



- (注) FlexFlash をサポートする Cisco Integrated Management Controller ファームウェアの最小バージョンは 2.0(2c) です。
- 

FlexFlash ポリシーを作成するには、以下の手順に従います。

## 手順

- ステップ 1** メニューバーで、[ポリシー (Policies)] > [物理インフラストラクチャ ポリシー (Physical Infrastructure Policies)] > [ラックサーバ (Rack Server)] の順に選択します。
- ステップ 2** [ハードウェアポリシー (Hardware Policies)] タブを選択します。
- ステップ 3** [追加 (Add)] ダイアログボックスで、ドロップダウンリストから [FlexFlash ポリシー (FlexFlash Policy)] を選択し、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 4** [ポリシー名 (Policy Name)] フィールドに名前を入力して [次へ (Next)] をクリックします。[サーバの現在の設定からポリシーを作成する (Create policy from current configuration of the server)] チェックボックスをオンにしてから、[次へ (Next)] をクリックすることもできます。この場合は、[サーバの詳細 (Server Details)] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでのタスクの実行については、[既存の設定からのポリシーの作成 \(4 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 5** [カードの設定 (Configure Cards)] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

フィールド	説明
[ファームウェアモード (Firmware Mode)] ペイン	<p>以下のファームウェア動作モードのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ミラーモード (Mirror Mode)] : このモードはミラー設定であり、C220 M4 および C240 M4 サーバのみで使用できます。</li> <li>• [Util モード (Util Mode)] : このモードでは、4つのパーティションがある1枚のカードおよび1つのパーティションがある1枚のカードが作成されます。このモードを使用できるのは C220 M4 および C240 M4 サーバのみです。</li> <li>• [適用なし (Not Applicable)] : ファームウェア動作モードは選択されません。[適用なし (Not Applicable)] を選択した場合は、ステップ 6 に進んでください。このモードが使用できるのは、C220 M3、C240 M3、C22、C24、および C460 M4 サーバのみです。</li> </ul>
[パーティション名 (Partition Name)] フィールド	パーティションの名前。

フィールド	説明
[非 Util カードのパーティション名 (Non Util Card Partition Name) ] フィールド	<p>2 枚目のカードの 1 つのパーティションに割り当てられる名前 (2 枚目のカードがある場合)。</p> <p>(注) このオプションは、Util モードの場合にのみ使用できます。</p>
[プライマリ カードの選択 (Select Primary Card) ] (ミラー モードの場合に使用可能) または [Util カードの選択 (Select Util Card) ] (Util モードの場合に使用可能) ドロップダウンリスト。	<p>SD カードがある場合は [スロット 1 (Slot 1) ] または [スロット 2 (Slot 2) ] を選択し、SD カードがサーバに 1 枚しかない場合は [なし (None) ] を選択します。</p> <p>(注) [なし (None) ] は [Util カードの選択 (Select Util Card) ] オプションの場合にのみ選択できます。</p>
[自動同期 (Auto Sync) ] チェックボックス	<p>選択されたスロットで使用できる SD カードを自動的に同期します。</p> <p>(注) このオプションは、ミラー モードの場合にのみ使用できます。</p>
[スロット 1 読み取りエラーしきい値 (Slot-1 Read Error Threshold) ] フィールド	<p>Cisco FlexFlash カードのスロット 1 へのアクセス中に許容される読み取りエラーの数。読み取りエラーの数がカード上のこのしきい値を超えると、カードが正常でないとマークされます。</p> <p>読み取りエラーのしきい値を指定するには、1 ~ 255 の整数を入力します。検出されたエラー数に関係なく、カードが無効にならないように指定するには、0 (ゼロ) を入力します。</p>
[スロット 1 書き込みエラーしきい値 (Slot-1 Write Error Threshold) ] フィールド	<p>Cisco FlexFlash カードのスロット 1 へのアクセス中に許容される書き込みエラーの数。書き込みエラーの数がカード上のこのしきい値を超えると、カードが正常でないとマークされます。</p> <p>書き込みエラーのしきい値を指定するには、1 ~ 255 の整数を入力します。検出されたエラー数に関係なく、カードが無効にならないように指定するには、0 (ゼロ) を入力します。</p>

フィールド	説明
[スロット 2 読み取りエラーしきい値 (Slot-2 Read Error Threshold) ] フィールド	<p>Cisco FlexFlash カードのスロット 2 へのアクセス中に許容される読み取りエラーの数。読み取りエラーの数がカード上のこのしきい値を超えると、カードが正常でないとマークされます。</p> <p>読み取りエラーのしきい値を指定するには、1 ~ 255 の整数を入力します。検出されたエラー数に関係なく、カードが無効にならないように指定するには、0 (ゼロ) を入力します。</p> <p>(注) このオプションは、Util モードの場合にのみ使用できます。ミラー モードの場合、スロット 1 の読み取り/書き込みしきい値はスロット 2 にも適用されます。</p>
[スロット 2 書き込みエラーしきい値 (Slot-2 Write Error Threshold) ] フィールド	<p>Cisco FlexFlash カードのスロット 2 へのアクセス中に許容される書き込みエラーの数。書き込みエラーの数がカード上のこのしきい値を超えると、カードが正常でないとマークされます。</p> <p>書き込みエラーのしきい値を指定するには、1 ~ 255 の整数を入力します。検出されたエラー数に関係なく、カードが無効にならないように指定するには、0 (ゼロ) を入力します。</p> <p>(注) このオプションは、Util モードの場合にのみ使用できます。ミラー モードの場合、スロット 1 の読み取り/書き込みしきい値はスロット 2 にも適用されます。</p>

**ステップ 6** ステップ 5 の [詳細 (Details) ] ペインで [適用なし (Not Applicable) ] を選択した場合は、以下のフィールドを入力します。

フィールド	説明
[有効な仮想ドライブ (Virtual Drive Enable) ] ドロップダウン リスト	USB 形式のドライブとして、サーバに対して使用可能にできる仮想ドライブ。
[RAID プライマリ メンバー (RAID Primary Member) ] ドロップダウン リスト	プライマリ RAID メンバが存在するスロット。
[RAID セカンダリ ロール (RAID Secondary Role) ] ドロップダウン リスト	セカンダリ RAID の役割。

フィールド	説明
[I/O 読み取りエラーしきい値 (I/O Read Error Threshold) ] フィールド	<p>Cisco FlexFlash カードへのアクセス中に許容される読み取りエラーの数。読み取りエラーの数がカード上のこのしきい値を超えると、カードが正常でないとマークされます。</p> <p>読み取りエラーのしきい値を指定するには、1 ~ 255 の整数を入力します。検出されたエラー数に関係なく、カードが無効にならないように指定するには、0 (ゼロ) を入力します。</p>
[I/O 書き込みエラーしきい値 (I/O Write Error Threshold) ] フィールド	<p>Cisco FlexFlash カードへのアクセス中に許容される書き込みエラーの数。書き込みエラーの数がカード上のこのしきい値を超えると、カードが正常でないとマークされます。</p> <p>Cisco FlexFlash カードへのアクセス中に許容される書き込みエラーの数。書き込みエラーの数がカード上のこのしきい値を超えると、カードが正常でないとマークされます。</p>
[エラーのクリア (Clear Errors) ] チェックボックス	オンにした場合、[送信 (Submit) ] をクリックすると、読み取り/書き込みエラーがクリアされます。

**ステップ 7** [送信 (Submit) ] をクリックします。

**ステップ 8** [送信結果 (Submit Result) ] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。  
[ハードウェアポリシー (Hardware Policies) ] テーブルで既存の FlexFlash ポリシーを選択後、ユーザインターフェイスで各操作オプションを選択すれば、そのポリシーの削除、編集、複製、適用や、適用状況の表示を実施することができます。

(注) FlexFlash のポリシーの適用は、以下の 2 つのステップで行われます。

- 1 サーバの設定がデフォルトに設定されます。
- 2 新しいポリシーの設定が適用されます。このステップで何らかの障害が発生した場合、既存の設定はポリシーに適用される前に失われます。

## IPMI Over LAN ポリシーの作成

IPMI over LAN ポリシーは、Cisco IMC を IPMI メッセージで管理する場合に設定します。

各種プロパティの設定に関する詳細は、『[Cisco UCS C-Series Servers Integrated Management Controller GUI Configuration Guide](#)』の「[Configuring IPMI](#)」の項を参照してください。

IPMI Over LAN ポリシーを作成するには、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1** メニューバーで、[ポリシー (Policies)] > [物理インフラストラクチャ ポリシー (Physical Infrastructure Policies)] > [ラックサーバ (Rack Server)] の順に選択します。
- ステップ 2** [ハードウェアポリシー (Hardware Policies)] タブを選択します。
- ステップ 3** [追加 (Add)] (+) をクリックします。
- ステップ 4** [追加 (Add)] ダイアログボックスで、ドロップダウンリストから [IPMI Over LAN ポリシー (IPMI Over LAN Policy)] を選択し、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 5** [ポリシー名 (Policy Name)] フィールドに名前を入力して [次へ (Next)] をクリックします。[サーバの現在の設定からポリシーを作成する (Create policy from current configuration of the server)] チェックボックスをオンにしてから、[次へ (Next)] をクリックすることもできます。この場合は、[サーバの詳細 (Server Details)] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでのタスクの実行については、[既存の設定からのポリシーの作成 \(4 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 6** [メイン (Main)] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

フィールド	説明
[IPMI Over LAN の有効化 (Enable IPMI Over LAN)] チェックボックス	IPMI プロパティを設定するには、このチェックボックスをオンにします。
[特権レベルの制限 (Privilege Level Limit)] ドロップダウンリスト	ドロップダウンリストから権限レベルを選択します。
[暗号化キー (Encryption Key)] フィールド	フィールドにキーを入力します。

(注) 暗号キーは 40 文字を超えない偶数の 16 進数文字である必要があります。指定した文字数が 40 未満の場合、キーの長さが 40 文字になるようゼロが追加されます。

- ステップ 7** [送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 8** [送信結果 (Submit Result)] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。

## LDAP ポリシーの作成

Cisco UCS Director は、LDAP ポリシーを使用したサーバでの LDAP 設定をサポートします。サーバまたはサーバの集合のニーズに合う特定の LDAP 設定グループを含む LDAP ポリシーを 1 つ以上作成できます。

LDAP の各種プロパティの設定に関する詳細は、『[Cisco UCS C-Series Servers Integrated Management Controller GUI Configuration Guide](#)』の「[Configuring LDAP Server](#)」の項を参照してください。

LDAP ポリシーを作成するには、次の手順を実行します。

## 手順

- 
- ステップ 1** メニューバーで、[ポリシー (Policies)] > [物理インフラストラクチャ ポリシー (Physical Infrastructure Policies)] > [ラックサーバ (Rack Server)] の順に選択します。
- ステップ 2** [ハードウェアポリシー (Hardware Policies)] タブを選択します。
- ステップ 3** [追加 (Add)] (+) をクリックします。
- ステップ 4** [追加 (Add)] ダイアログボックスで、ドロップダウンリストから [LDAP ポリシー (LDAP Policy)] を選択し、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 5** [ポリシー名 (Policy Name)] フィールドに名前を入力して [次へ (Next)] をクリックします。[サーバの現在の設定からポリシーを作成する (Create policy from current configuration of the server)] チェックボックスをオンにしてから、[次へ (Next)] をクリックすることもできます。この場合は、[サーバの詳細 (Server Details)] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでのタスクの実行については、[既存の設定からのポリシーの作成 \(4 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 6** [メイン (Main)] ダイアログボックスで、LDAP プロパティを入力します。
- ステップ 7** [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 8** [LDAP サーバ (LDAP Servers)] ダイアログボックスで、LDAP サーバの詳細を入力します。
- ステップ 9** [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 10** [グループ認証 (Group Authorization)] ダイアログボックスで、グループ認証の詳細を入力し、[+] をクリックして LDAP グループ エントリをテーブルに追加します。
- ステップ 11** [LDAP グループへのエントリの追加 (Add Entry to LDAP Groups)] ダイアログボックスで、グループの詳細を入力します。
- ステップ 12** [送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 13** [送信結果 (Submit Result)] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。
- ステップ 14** [グループ認証 (Group Authorization)] ダイアログボックスで、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 15** [送信結果 (Submit Result)] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。
- (注)
- それまでにラックサーバで設定した既存の LDAP ロールグループが削除され、ポリシーで設定したロールグループに置き換えられます。ポリシーにロールグループを追加していない場合、サーバの既存のロールグループは削除されますが、置換は行われません。
  - [ネストしたグループの検索の深さ (Nested Group Search Depth)] は、Cisco IMC バージョン 2.0(4c) 以降にのみ適用されます。Cisco IMC の 2.0(4c) より前のバージョンを実行しているサーバでは、ポリシーを使用してこの値を適用することはできません。
-

## レガシー ブート順序ポリシーの作成

レガシーブート順序ポリシーは、ラックサーバのブート順序の設定を自動化します。サーバまたはサーバの集合のニーズに合う特定のブート順序設定グループを含むレガシーブート順序ポリシーを1つ以上作成できます。Cisco UCS Director を使用して、使用可能なブート デバイス タイプからラックサーバがブートを試行する順序を設定できます。デバイスの線形順序付けが可能な高精度ブート順序を設定することもできます。高精度ブート順序の詳細については、[高精度ブート順序ポリシーの作成](#)、(20 ページ) を参照してください。

サーバブート順序の各種プロパティの設定に関する詳細は、『[Cisco UCS C-Series Servers Integrated Management Controller GUI Configuration Guide](#)』の「*Server Boot Order*」の項を参照してください。

レガシーブート順序ポリシーを作成するには、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1 メニューバーで、[ポリシー (Policies)] > [物理インフラストラクチャ ポリシー (Physical Infrastructure Policies)] > [ラックサーバ (Rack Server)] の順に選択します。
- ステップ 2 [ハードウェア ポリシー (Hardware Policies)] タブを選択します。
- ステップ 3 [追加 (Add)] (+) をクリックします。
- ステップ 4 [追加 (Add)] ダイアログボックスで、ドロップダウンリストから [レガシーブート順序ポリシー (Legacy Boot Order Policy)] を選択し、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 5 [ポリシー名 (Policy Name)] フィールドに名前を入力して [次へ (Next)] をクリックします。[サーバの現在の設定からポリシーを作成する (Create policy from current configuration of the server)] チェックボックスをオンにしてから、[次へ (Next)] をクリックすることもできます。この場合は、[サーバの詳細 (Server Details)] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでのタスクの実行については、[既存の設定からのポリシーの作成](#)、(4 ページ) を参照してください。
- ステップ 6 [メイン (Main)] ダイアログボックスで、[+] をクリックしてドロップダウンリストからデバイス タイプを選択します。追加したデバイスがテーブルに表示されます。[デバイスの選択 (Select Devices)] テーブルで、既存のデバイスを選択して [X] をクリックすると、そのデバイスが削除されます。エントリの順序を並べ替えるには、上下の矢印アイコンを使用します。テーブルのエントリの順序によって、ブート順序が決まります。  
同じデバイス タイプを再度追加することはできません。
- ステップ 7 [選択デバイスへのエントリの追加 (Add Entry to Select Devices)] ダイアログボックスで、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 8 [送信結果 (Submit Result)] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。
- ステップ 9 [メイン (Main)] ダイアログボックスで [送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 10 [送信結果 (Submit Result)] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。

- (注) このポリシーは、Cisco IMC の 2.0 より前のバージョンにのみ適用できます。これ以降のバージョンの Cisco IMC を実行しているサーバにポリシーを適用すると、エラーメッセージが表示されます。2.0 より後のバージョンを実行しているサーバでは、高精度ブート順序ポリシーを代わりに使用してください。

## ネットワーク設定ポリシーの作成

ネットワーク設定ポリシーを使用して、サーバに以下のネットワーク設定を指定できます。

- DNS ドメイン
- IPv4 および IPv6 用の DNS サーバ
- VLAN の設定

各種のネットワーク設定プロパティに関する詳細は、『[Cisco UCS C-Series Servers Integrated Management Controller GUI Configuration Guide](#)』の「[Configuring Network-Related Settings](#)」の項を参照してください。

ネットワーク設定ポリシーを作成するには、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1** メニューバーで、[ポリシー (Policies)] > [物理インフラストラクチャ ポリシー (Physical Infrastructure Policies)] > [ラックサーバ (Rack Server)] の順に選択します。
- ステップ 2** [ハードウェア ポリシー (Hardware Policies)] タブを選択します。
- ステップ 3** [追加 (Add)] (+) をクリックします。
- ステップ 4** [追加 (Add)] ダイアログボックスで、ドロップダウンリストから [ネットワーク設定ポリシー (Network Configuration Policy)] を選択し、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 5** [ポリシー名 (Policy Name)] フィールドに名前を入力して [次へ (Next)] をクリックします。[サーバの現在の設定からポリシーを作成する (Create policy from current configuration of the server)] チェックボックスをオンにしてから、[次へ (Next)] をクリックすることもできます。この場合は、[サーバの詳細 (Server Details)] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでのタスクの実行については、[既存の設定からのポリシーの作成](#)、(4 ページ) を参照してください。
- ステップ 6** ポリシーが Cisco UCS C3260 サーバ用の場合、[Cisco UCS C3260] チェックボックスをオンにして、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 7** [メイン (Main)] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

フィールド	説明
共通のプロパティ	

フィールド	説明
[ダイナミック DNS の使用 (Use Dynamic DNS) ] チェックボックス	ダイナミック DNS を使用することを示すには、このチェックボックスをオンにします。  ダイナミック DNS は、Cisco UCS Director から DNS サーバのリソース レコードを追加または更新するために使用されます。
[ダイナミック DNS の使用 (Use Dynamic DNS) ]	チェックボックスがオンの場合
[ダイナミック DNS 更新ドメイン (Dynamic DNS Update Domain) ] フィールド	ドメインを指定できます。  このドメインは、メイン ドメインまたはサブドメインのどちらにもできます。このドメイン名は、DDNS 更新のため Cisco UCS Director のホスト名に付加されます。
IPv4 プロパティ	
[DHCP から DNS サーバアドレスを取得する (Obtain DNS Server Addresses from DHCP) ] チェックボックス	オンにすると、Cisco UCS Director は DNS サーバアドレスを DHCP から取得します。
[DHCP から DNS サーバアドレスを取得する (Obtain DNS Server Addresses from DHCP) ]	チェックボックスをオフにした場合
[優先 DNS サーバ (Preferred DNS Server) ] フィールド	プライマリ DNS サーバの IP アドレス。
[代替 DNS サーバ (Alternate DNS Server) ] フィールド	セカンダリ DNS サーバの IP アドレス。
IPv6 プロパティ	
[DHCP から DNS サーバアドレスを取得する (Obtain DNS Server Addresses from DHCP) ] チェックボックス	オンにすると、Cisco UCS Director は DNS サーバアドレスを DHCP から取得します。
[DHCP から DNS サーバアドレスを取得する (Obtain DNS Server Addresses from DHCP) ]	チェックボックスをオフにした場合
[優先 DNS サーバ (Preferred DNS Server) ] フィールド	プライマリ DNS サーバの IP アドレス。
[代替 DNS サーバ (Alternate DNS Server) ] フィールド	セカンダリ DNS サーバの IP アドレス。

フィールド	説明
VLAN プロパティ	
[VLANの有効化 (Enable VLAN) ]チェックボックス	オンにすると、仮想 LAN に接続されます。
[VLAN の有効化 (Enable VLAN) ]チェックボックスをオンにした場合	
[VLAN ID] フィールド	VLAN ID。
[優先順位 (Priority) ] フィールド	VLAN でのこのシステムのプライオリティ。

**ステップ 8** [一般 (General) ] ペインで [Cisco UCS C3260] チェックボックスをオンにした場合、次の手順を実行する必要があります。

- a) [CMC 設定 (CMC Settings) ] ペインで、ホスト名と IPv4 アドレスを指定し、[次へ (Next) ] をクリックします。
- b) [BMC 設定 (BMC Settings) ] ペインで、ホスト名と IPv4 アドレスを指定し、[次へ (Next) ] をクリックします。

**ステップ 9** [確認 (Confirm) ] ペインで、[送信 (Submit) ] をクリックします。

**ステップ 10** [送信結果 (Submit Result) ] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。

**注意** Cisco UCS Director とラックサーバの間のネットワークの DHCP 設定に依存する通信が遮断されないようにするため、次の設定を使用するときには注意してください。

DNS IP アドレスを取得するために DHCP を使用すると、システムはサーバの管理 IP アドレスの取得にも DHCP を使用するようにラックサーバ (このポリシーが適用される) を設定します。

## ネットワークセキュリティポリシーの作成

Cisco UCS Director は、IP ブロッキングをネットワークセキュリティとして使用します。IP ブロッキングは、サーバまたは Web サイトと特定の IP アドレスやアドレス範囲との間の接続を阻止します。IP ブロッキングは、事実上これらのコンピュータから Web サイト、メールサーバ、またはその他のインターネットサーバへの不要な接続を禁止します。サーバまたはサーバの集合のニーズに合う特定の IP プロパティグループを含むネットワークセキュリティポリシーを 1 つ以上作成できます。

ネットワークセキュリティの各種プロパティの設定に関する詳細は、『[Cisco UCS C-Series Servers Integrated Management Controller GUI Configuration Guide](#)』の「*Network Security Configuration*」の項を参照してください。

ネットワークセキュリティポリシーを作成するには、次の手順を実行します。

## 手順

- ステップ 1 メニューバーで、[ポリシー (Policies)] > [物理インフラストラクチャポリシー (Physical Infrastructure Policies)] > [ラックサーバ (Rack Server)] の順に選択します。
- ステップ 2 [ハードウェアポリシー (Hardware Policies)] タブを選択します。
- ステップ 3 [追加 (Add)] (+) をクリックします。
- ステップ 4 [追加 (Add)] ダイアログボックスで、ドロップダウンリストから [ネットワークセキュリティ (Network Security)] を選択し、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 5 [ポリシー名 (Policy Name)] フィールドに名前を入力して [次へ (Next)] をクリックします。[サーバの現在の設定からポリシーを作成する (Create policy from current configuration of the server)] チェックボックスをオンにしてから、[次へ (Next)] をクリックすることもできます。この場合は、[サーバの詳細 (Server Details)] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでのタスクの実行については、[既存の設定からのポリシーの作成 \(4 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 6 [メイン (Main)] ダイアログボックスで、[IP ブロッキングの有効化 (Enable IP Blocking)] チェックボックスをオンにして IP をブロックし、属性を入力して IP ブロッキングのプロパティを設定します。
- ステップ 7 [送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 8 [送信結果 (Submit Result)] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。

## NTP ポリシーの作成

NTP サービスを使用すると、Cisco UCS Director によって管理されるサーバが NTP サーバと時刻を同期するように設定することができます。デフォルトでは、NTP サーバは Cisco UCS Director で動作しません。NTP サーバとして動作する、1 台から最大 4 台のサーバの IP/DNS アドレスを指定し、NTP サービスを有効にして設定する必要があります。NTP サービスを有効にすると、Cisco UCS Director は設定した NTP サーバと管理対象サーバの時刻を同期します。

NTP の各種プロパティの設定に関する詳細は、『[Cisco UCS C-Series Servers Integrated Management Controller GUI Configuration Guide](#)』の「[Configuring Network Time Protocol Settings](#)」の項を参照してください。

NTP ポリシーを作成するには、次の手順を実行します。

## 手順

- 
- ステップ 1** メニューバーで、[ポリシー (Policies)] > [物理インフラストラクチャ ポリシー (Physical Infrastructure Policies)] > [ラックサーバ (Rack Server)] の順に選択します。
- ステップ 2** [ハードウェア ポリシー (Hardware Policies)] タブを選択します。
- ステップ 3** [追加 (Add)] (+) をクリックします。
- ステップ 4** [追加 (Add)] ダイアログボックスで、ドロップダウンリストから [NTP ポリシー (NTP Policy)] を選択し、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 5** [ポリシー名 (Policy Name)] フィールドに名前を入力して [次へ (Next)] をクリックします。[サーバの現在の設定からポリシーを作成する (Create policy from current configuration of the server)] チェックボックスをオンにしてから、[次へ (Next)] をクリックすることもできます。この場合は、[サーバの詳細 (Server Details)] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでのタスクの実行については、[既存の設定からのポリシーの作成 \(4 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 6** [メイン (Main)] ダイアログボックスで、[NTP の有効化 (Enable NTP)] チェックボックスをオンにして代替サーバを有効化し、最大 4 台の NTP サーバを指定します。
- ステップ 7** [送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 8** [送信結果 (Submit Result)] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。  
(注) このポリシーは、E シリーズ サーバ モデルには使用できません。
- 

## 高精度ブート順序ポリシーの作成

高精度ブート順序を設定すると、デバイスの線形順序付けが可能になります。Cisco UCS Director では、ブート順序およびブートモードの変更、各デバイスタイプに基づいた複数のデバイスの追加、ブート順序の並び替え、各デバイス タイプのパラメータの設定が可能です。

ブート順序の各種プロパティの設定に関する詳細は、『[Cisco UCS C-Series Servers Integrated Management Controller GUI Configuration Guide](#)』の「*Configuring the Precision Boot Order*」の項を参照してください。

このポリシーは、バージョン 2.x 以降の Cisco IMC を実行しているサーバに対して作成できます。2.x より前のバージョンを実行しているサーバでは、レガシーブート順序ポリシーを代わりに設定してください。

高精度ブート順序ポリシーを作成するには、次の手順を実行します。

## 手順

- ステップ 1 メニューバーで、[ポリシー (Policies)] > [物理インフラストラクチャ ポリシー (Physical Infrastructure Policies)] > [ラックサーバ (Rack Server)] の順に選択します。
- ステップ 2 [ハードウェア ポリシー (Hardware Policies)] タブを選択します。
- ステップ 3 [追加 (Add)] (+) をクリックします。
- ステップ 4 [追加 (Add)] ダイアログボックスで、ドロップダウンリストから [高精度ブート順序ポリシー (Precision Boot Order Policy)] を選択し、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 5 [ポリシー名 (Policy Name)] フィールドに名前を入力して [次へ (Next)] をクリックします。[サーバの現在の設定からポリシーを作成する (Create policy from current configuration of the server)] チェックボックスをオンにしてから、[次へ (Next)] をクリックすることもできます。この場合は、[サーバの詳細 (Server Details)] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでのタスクの実行については、[既存の設定からのポリシーの作成 \(4 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 6 [メイン (Main)] ダイアログボックスで、[UEFI セキュア ブート (UEFI Secure Boot)] チェックボックスをオンにするか、[ブート モードの設定 (Configure Boot Mode)] ドロップダウンリストからブート モードを選択します。
- ステップ 7 [+] をクリックして、デバイスの詳細を選択または入力します。追加したデバイスがテーブルに表示されます。  
[デバイスの選択 (Select Devices)] テーブルで既存のデバイスを選択し、[X] をクリックしてデバイスを削除したり、編集アイコンをクリックしてデバイスを編集したりすることができます。エントリの順序を並べ替えるには、上下の矢印アイコンを使用します。テーブルのエントリの順序によって、ブート順序が決まります。
- ステップ 8 [選択デバイスへのエントリの追加 (Add Entry to Select Devices)] ダイアログボックスで、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 9 [送信結果 (Submit Result)] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。
- ステップ 10 [メイン (Main)] ダイアログボックスで [送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 11 [送信結果 (Submit Result)] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。

## RAID ポリシーの作成

RAID ポリシーを使用して、サーバで仮想ドライブを作成できます。仮想ドライブのストレージ容量も設定できます。RAID ポリシーの各仮想ドライブはディスク グループ ポリシーに関連付けられます。ディスク グループ ポリシーを使用して、特定の仮想ドライブに使用するディスクを選択および設定できます。

RAID ポリシーは、次でのみサポートされます。

- RAID 設定をサポートするストレージコントローラ。

- Cisco IMC ファームウェア バージョン 2.0(4c) 以降。
- 単一のストレージコントローラを含むサーバ。複数のストレージコントローラを含むサーバでは、最初のスロットのストレージコントローラにのみ RAID ポリシーが適用されます。

各種プロパティの設定に関する詳細は、『[Cisco UCS C-Series Servers Integrated Management Controller GUI Configuration Guide](#)』の「[Managing Storage Adapters](#)」の項を参照してください。

RAID ポリシーを作成するには、次の手順を実行します。

## 手順

- 
- ステップ 1** メニューバーで、[ポリシー (Policies)] > [物理インフラストラクチャポリシー (Physical Infrastructure Policies)] > [ラックサーバ (Rack Server)] の順に選択します。
- ステップ 2** [ハードウェアポリシー (Hardware Policies)] タブを選択します。
- ステップ 3** [追加 (Add)] (+) をクリックします。
- ステップ 4** [追加 (Add)] ダイアログボックスで、ドロップダウンリストから [RAID ポリシー (RAID Policy)] を選択し、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 5** [ポリシー名 (Policy Name)] フィールドに名前を入力して [次へ (Next)] をクリックします。[サーバの現在の設定からポリシーを作成する (Create policy from current configuration of the server)] チェックボックスをオンにしてから、[次へ (Next)] をクリックすることもできます。この場合は、[サーバの詳細 (Server Details)] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでのタスクの実行については、[既存の設定からのポリシーの作成 \(4 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 6** ポリシーが Cisco UCS C3260 サーバ用の場合、[Cisco UCS C3260] チェックボックスをオンにして、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 7** [メイン (Main)] ダイアログボックスで [+] をクリックして、サーバで設定する仮想ドライブを [仮想ドライブ (Virtual Drives)] リストに追加します。
- ステップ 8** [仮想ドライブへのエントリの追加 (Add Entry to Virtual Drives)] ダイアログボックスで、仮想ドライブの詳細を入力または選択します。  
ドロップダウンリストから既存のディスクグループポリシーを選択して編集するか、新しいディスクグループポリシーを追加してローカルディスクを指定することができます。ディスクグループポリシーを作成するには、「[#unique\\_81](#)」を参照してください。  
(注) 2つの仮想ドライブを作成して同じディスクグループポリシーに関連付けると、同じ仮想ドライブグループスペースを共有します。
- ステップ 9** [エントリの追加 (Add Entry)] ダイアログボックスで、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 10** [送信結果 (Submit Result)] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。
- ステップ 11** サーバの既存の仮想ドライブをすべて削除するには、[既存の仮想ドライブの削除 (Delete existing Virtual Drives)] チェックボックスをオンにします。  
このチェックボックスをオンにすると、サーバの既存の仮想ドライブは、ポリシーの適用時にすべて削除されます。この結果、既存のデータは失われます。
- ステップ 12** [未使用ディスクを設定する (Configure Unused Disks)] チェックボックスをオンにして、残りのディスクを設定します。

このオプションは、JBOD をサポートするストレージコントローラにのみ適用されます。仮想ドライブまたはホットスペアに使用されないディスクは、JBOD として設定されます。

a) 次のいずれかのオプションをオンにしてください。

- [未設定で良好 (Unconfigured Good) ]
- [JBOD]

**ステップ 13** [送信 (Submit) ] をクリックします。

**ステップ 14** [送信結果 (Submit Result) ] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。

## Serial Over LAN ポリシーの作成

Serial over LAN を使用すると、管理対象システムのシリアルポートの入出力を IP 経由でリダイレクトできます。ホスト コンソールへ Cisco UCS Director を使用して到達する場合は、サーバで Serial over LAN を設定して使用します。サーバまたはサーバの集合のニーズに合う特定の Serial over LAN 属性グループを含む Serial over LAN ポリシーを 1 つ以上作成できます。

Serial over LAN の各種プロパティの設定に関する詳細は、『[Cisco UCS C-Series Servers Integrated Management Controller GUI Configuration Guide](#)』の「[Configuring Serial Over LAN](#)」の項を参照してください。

Serial over LAN ポリシーを作成するには、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1** メニューバーで、[ポリシー (Policies) ] > [物理インフラストラクチャ ポリシー (Physical Infrastructure Policies) ] > [ラックサーバ (Rack Server) ] の順に選択します。
- ステップ 2** [ハードウェア ポリシー (Hardware Policies) ] タブを選択します。
- ステップ 3** [追加 (Add) ] (+) をクリックします。
- ステップ 4** [追加 (Add) ] ダイアログボックスで、ドロップダウンリストから [Serial over LAN ポリシー (Serial over LAN Policy) ] を選択し、[送信 (Submit) ] をクリックします。
- ステップ 5** [ポリシー名 (Policy Name) ] フィールドに名前を入力して [次へ (Next) ] をクリックします。[サーバの現在の設定からポリシーを作成する (Create policy from current configuration of the server) ] チェックボックスをオンにしてから、[次へ (Next) ] をクリックすることもできます。この場合は、[サーバの詳細 (Server Details) ] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでのタスクの実行については、[既存の設定からのポリシーの作成](#)、(4 ページ) を参照してください。

- ステップ 6** [メイン (Main) ] ダイアログボックスで、[SoLの有効化 (Enable SoL) ] チェックボックスをオンにして、ドロップダウンリストから [CoMポート (CoM Port) ] および [ボーレート (Baud Rate) ] の値を選択するか、既存の値を使用します。
- ステップ 7** [送信 (Submit) ] をクリックします。
- ステップ 8** [送信結果 (Submit Result) ] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。
- 

## SNMP ポリシーの作成

Cisco UCS Director は、Simple Network Management Protocol (SNMP) 設定、および管理対象サーバから SNMP トラップによって障害およびアラート情報を送信するための設定をサポートします。

SNMP の各種プロパティの設定に関する詳細は、『[Cisco UCS C-Series Servers Integrated Management Controller GUI Configuration Guide](#)』の「*Configuring SNMP*」の項を参照してください。

SNMP ポリシーを作成するには、次の手順を実行します。

### 手順

---

- ステップ 1** メニューバーで、[ポリシー (Policies) ] > [物理インフラストラクチャ ポリシー (Physical Infrastructure Policies) ] > [ラックサーバ (Rack Server) ] の順に選択します。
- ステップ 2** [ハードウェアポリシー (Hardware Policies) ] タブを選択します。
- ステップ 3** [追加 (Add) ] (+) をクリックします。
- ステップ 4** [追加 (Add) ] ダイアログボックスで、ドロップダウンリストから [SNMP ポリシー (SNMP Policy) ] を選択し、[送信 (Submit) ] をクリックします。
- ステップ 5** [ポリシー名 (Policy Name) ] フィールドに名前を入力して [次へ (Next) ] をクリックします。[サーバの現在の設定からポリシーを作成する (Create policy from current configuration of the server) ] チェックボックスをオンにしてから、[次へ (Next) ] をクリックすることもできます。この場合は、[サーバの詳細 (Server Details) ] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでのタスクの実行については、[既存の設定からのポリシーの作成 \(4 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 6** [SNMP ユーザ (SNMP Users) ] ダイアログボックスで、[+] をクリックして SNMP ユーザを追加し、ユーザの詳細を入力します。[+] アイコンを使用して最大 15 の SNMP ユーザを追加できます。既存の SNMP エントリを選択し、エントリを編集するかテーブルから削除します。
- ステップ 7** [次へ (Next) ] をクリックします。
- ステップ 8** [SNMP トラップ (SNMP Traps) ] ダイアログボックスで、[+] をクリックして SNMP トラップを追加し、トラップの詳細を入力します。[+] アイコンを使用して最大 15 の SNMP トラップを追加できます。既存の SNMP エントリを選択し、エントリを編集するかテーブルから削除します。

- ステップ 9 [次へ (Next) ] をクリックします。
- ステップ 10 [SNMP の設定 (SNMP Settings) ] ダイアログボックスで SNMP プロパティを設定します。
- ステップ 11 [送信 (Submit) ] をクリックします。
- ステップ 12 [送信結果 (Submit Result) ] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。
- (注)
- それまでにサーバで設定した既存の [SNMP ユーザ (SNMP Users) ] または [SNMP トラップ (SNMP Traps) ] が削除され、ポリシーで設定したユーザまたはトラップに置き換えられます。ポリシーにユーザまたはトラップを追加していない場合、サーバの既存のユーザまたはトラップは削除されますが、置換は行われません。
  - 2.x より前のバージョンの Cisco IMC を実行しているサーバで SNMP ポートを設定することはできません。該当するサーバではチェックボックスを使用して除外する必要があります。

## SSH ポリシーの作成

SSH サーバにより、SSH クライアントは暗号化された安全な接続を確立できます。SSH クライアントは SSH プロトコルで動作するアプリケーションで、デバイスの認証と暗号化を行います。サーバまたはサーバの集合のニーズに合う特定の SSH プロパティ グループを含む SSH ポリシーを 1 つ以上作成できます。

SSH の各種プロパティの設定に関する詳細は、『[Cisco UCS C-Series Servers Integrated Management Controller GUI Configuration Guide](#)』の「[Configuring SSH](#)」の項を参照してください。

SSH ポリシーを作成するには、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[ポリシー (Policies) ] > [物理インフラストラクチャ ポリシー (Physical Infrastructure Policies) ] > [ラックサーバ (Rack Server) ] の順に選択します。
- ステップ 2 [ハードウェア ポリシー (Hardware Policies) ] タブを選択します。
- ステップ 3 [追加 (Add) ] (+) をクリックします。
- ステップ 4 [追加 (Add) ] ダイアログボックスで、ドロップダウンリストから [SSH ポリシー (SSH Policy) ] を選択し、[送信 (Submit) ] をクリックします。
- ステップ 5 [ポリシー名 (Policy Name) ] フィールドに名前を入力して [次へ (Next) ] をクリックします。[サーバの現在の設定からポリシーを作成する (Create policy from current configuration of the server) ] チェックボックスをオンにしてから、[次へ (Next) ] をクリックすることもできます。この場合は、[サーバの詳細 (Server Details) ] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでのタスクの実行については、[既存の設定からのポリシーの作成](#)、(4 ページ) を参照してください。

- ステップ 6** [メイン (Main) ] ダイアログボックスで、[SSH の有効化 (Enable SSH) ] チェックボックスをオンにして、SSH プロパティを入力するか、既存のプロパティを使用します。
- ステップ 7** [送信 (Submit) ] をクリックします。
- ステップ 8** [送信結果 (Submit Result) ] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。
- 

## ユーザポリシーの作成

ユーザポリシーを使用して、ローカルユーザの設定を自動化できます。いくつかのユーザポリシーを作成して、サーバまたはサーバグループに設定するローカルユーザのリストをポリシーに追加します。

各種プロパティの設定に関する詳細は、『[Cisco UCS C-Series Servers Integrated Management Controller GUI Configuration Guide](#)』の「[Configuring Local Users](#)」の項を参照してください。

ユーザポリシーを作成するには、次の手順を実行します。

### 手順

---

- ステップ 1** メニューバーで、[ポリシー (Policies) ] > [物理インフラストラクチャポリシー (Physical Infrastructure Policies) ] > [ラックサーバ (Rack Server) ] の順に選択します。
- ステップ 2** [ハードウェアポリシー (Hardware Policies) ] タブを選択します。
- ステップ 3** [追加 (Add) ] (+) をクリックします。
- ステップ 4** [追加 (Add) ] ダイアログボックスで、ドロップダウンリストから [ユーザポリシー (User Policy) ] を選択し、[送信 (Submit) ] をクリックします。
- ステップ 5** [ポリシー名 (Policy Name) ] フィールドに名前を入力して [次へ (Next) ] をクリックします。[サーバの現在の設定からポリシーを作成する (Create policy from current configuration of the server) ] チェックボックスをオンにしてから、[次へ (Next) ] をクリックすることもできます。この場合は、[サーバの詳細 (Server Details) ] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでのタスクの実行については、[既存の設定からのポリシーの作成](#)、(4 ページ) を参照してください。
- ステップ 6** ポリシーが Cisco UCS C3260 サーバ用の場合、[Cisco UCS C3260] チェックボックスをオンにして、[次へ (Next) ] をクリックします。
- ステップ 7** [メイン (Main) ] ダイアログボックスで、[強力なパスワードを強制する (Enforce Strong Password) ] チェックボックスをオンにします。  
このチェックボックスをオンにすると、このポリシーを適用するよう選択されたユーザは、強力なパスワードを作成しなければなりません。
- ステップ 8** [+] をクリックして、サーバで設定する必要があるユーザを [ユーザ (Users) ] リストに追加できます。
- ステップ 9** [ユーザへのエントリの追加 (Add Entry to Users) ] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
[ユーザ名 (Username) ] フィールド	フィールドにユーザの名前を入力します。
[ロール (Role) ] ドロップダウンリスト	ドロップダウンリストから、[読み取り専用 (read-only) ]、[管理者 (admin) ]などのユーザ ロールを選択します。
[ユーザ アカウントの有効化 (Enable User Account) ] チェックボックス	ユーザアカウントをアクティブにするには、このチェック ボックスをオンにします。
[新しいパスワード (New Password) ] フィールド	ユーザ名に関連付けられたパスワードを入力します。
[新しいパスワードの確認 (Confirm New Password) ] フィールド	前のフィールドと同じパスワードを入力します。

**ステップ 10** [送信 (Submit) ] をクリックします。

**ステップ 11** [送信結果 (Submit Result) ] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。  
[メイン (Main) ] ダイアログボックスの [ユーザ (Users) ] テーブルから既存のユーザを選択し、[編集 (Edit) ] または [削除 (Delete) ] アイコンをクリックしてユーザを編集または削除することもできます。

- (注)
- [ユーザ (Users) ] テーブルの先頭のユーザは admin ユーザです。この admin ユーザは削除できませんが、パスワードを変更することはできます。
  - ユーザポリシーを適用すると、Cisco UCS Director の既存のユーザエントリーはここで作成したユーザエントリーに置き換えられます。Cisco UCS Director の空白エントリーはCisco UCS Director のデフォルトユーザに置き換えられます。デフォルトユーザ ロールは常に読み取り専用で、ユーザは無効になっています。
  - Cisco UCS Director を管理するためのアカウントがポリシーのユーザリストから削除されていないことを確認します。これを削除すると、Cisco UCS Director が管理対象サーバに接続できなくなります。

## VIC アダプタ ポリシーの作成

各種プロパティの設定の詳細については、『[Cisco UCS C-Series Servers Integrated Management Controller GUI Configuration Guide](#)』の「[Viewing VIC Adapter Properties](#)」の項を参照してください。

VIC アダプタ ポリシーを作成するには、次の手順を実行します。

## 手順

- 
- ステップ 1** メニューバーで、[ポリシー (Policies)] > [物理インフラストラクチャ ポリシー (Physical Infrastructure Policies)] > [ラック サーバ (Rack Server)] の順に選択します。
- ステップ 2** [ハードウェア ポリシー (Hardware Policies)] タブを選択します。
- ステップ 3** [追加 (Add)] (+) をクリックします。
- ステップ 4** [追加 (Add)] ダイアログボックスで、ドロップダウンリストから [VIC アダプタ ポリシー (VIC Adapter Policy)] を選択し、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 5** [ポリシー名 (Policy Name)] フィールドに名前を入力して [次へ (Next)] をクリックします。[サーバの現在の設定からポリシーを作成する (Create policy from current configuration of the server)] チェックボックスをオンにしてから、[次へ (Next)] をクリックすることもできます。この場合は、[サーバの詳細 (Server Details)] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでのタスクの実行については、[既存の設定からのポリシーの作成 \(4 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 6** [メイン (Main)] ダイアログボックスで、[+] をクリックして VIC アダプタ エントリをテーブルに追加します。
- ステップ 7** [VIC アダプタへのエントリの追加 (Add Entry to VIC Adapters)] ダイアログボックスで、アダプタの詳細を入力または選択します。
- [vNIC] : デフォルトプロパティは、[eth0] および [eth1] です。これらのプロパティは編集できますが、削除することはできません。これらのプロパティは、usNIC プロパティにも使用できます。
  - [vHBA] : デフォルトプロパティは、[fc0] および [fc1] です。これらのプロパティは編集できますが、削除することはできません。
- ステップ 8** [送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 9** [送信結果 (Submit Result)] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。
- ステップ 10** [メイン (Main)] ダイアログボックスで [送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 11** [送信結果 (Submit Result)] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。
- 

## 仮想 KVM ポリシーの作成

KVM コンソールは Cisco UCS Director からアクセス可能なインターフェイスであり、サーバへのキーボード、ビデオ、マウス (KVM) の直接接続をエミュレートします。KVM コンソールを使用すると、リモートの場所からサーバに接続できます。サーバまたはサーバの集合のニーズに合う特定の KVM プロパティ グループを含む KVM ポリシーを 1 つ以上作成できます。

KVM の各種プロパティの設定に関する詳細は、『[Cisco UCS C-Series Servers Integrated Management Controller GUI Configuration Guide](#)』の「[Configuring the Virtual KVM](#)」の項を参照してください。

仮想 KVM ポリシーを作成する場合は、次の手順を実行します。

#### 手順

- 
- ステップ 1 メニューバーで、[ポリシー (Policies)] > [物理インフラストラクチャポリシー (Physical Infrastructure Policies)] > [ラックサーバ (Rack Server)] の順に選択します。
  - ステップ 2 [ハードウェアポリシー (Hardware Policies)] タブを選択します。
  - ステップ 3 [追加 (Add)] (+) をクリックします。
  - ステップ 4 [追加 (Add)] ダイアログボックスで、ドロップダウンリストから [仮想 KVM ポリシー (Virtual KVM Policy)] を選択し、[送信 (Submit)] をクリックします。
  - ステップ 5 [ポリシー名 (Policy Name)] フィールドに名前を入力して [次へ (Next)] をクリックします。[サーバの現在の設定からポリシーを作成する (Create policy from current configuration of the server)] チェックボックスをオンにしてから、[次へ (Next)] をクリックすることもできます。この場合は、[サーバの詳細 (Server Details)] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでのタスクの実行については、[既存の設定からのポリシーの作成 \(4 ページ\)](#) を参照してください。
  - ステップ 6 [vKVM の有効化 (Enable vKVM)] チェックボックスをオンにします。
  - ステップ 7 [最大セッション数 (Max Sessions)] ドロップダウンリストで、KVM セッションの最大数を指定する数値を選択します。
  - ステップ 8 [リモートポート (Remote Port)] フィールドでポート番号を指定します。
  - ステップ 9 [ビデオの暗号化を有効にする (Enable Video Encryption)] チェックボックスをオンにします。
  - ステップ 10 [ローカルサーバのビデオを有効にする (Enable Local Server Video)] チェックボックスをオンにします。
  - ステップ 11 [送信 (Submit)] をクリックします。
  - ステップ 12 [送信結果 (Submit Result)] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。
- 

## vMedia ポリシーの作成

KVM コンソールおよび vMedia を使ってサーバに OS をインストールするために、Cisco UCS Director を使用できます。サーバまたはサーバの集合のニーズに合う、複数の OS イメージの vMedia マッピングを含む vMedia ポリシーを 1 つ以上作成できます。Cisco UCS Director では、ISO ファイル (CDD を使用) と IMG ファイル (HDD を使用) でそれぞれ 1 つずつ、最大 2 つの vMedia マッピングを設定できます。

vMedia の各種プロパティの設定に関する詳細は、『[Cisco UCS C-Series Servers Integrated Management Controller GUI Configuration Guide](#)』の「[Configuring Virtual Media](#)」の項を参照してください。

vMedia ポリシーを作成するには、次の手順を実行します。

## 手順

- 
- ステップ 1** メニューバーで、[ポリシー (Policies)] > [物理インフラストラクチャ ポリシー (Physical Infrastructure Policies)] > [ラックサーバ (Rack Server)] の順に選択します。
- ステップ 2** [ハードウェア ポリシー (Hardware Policies)] タブを選択します。
- ステップ 3** [追加 (Add)] (+) をクリックします。
- ステップ 4** [追加 (Add)] ダイアログボックスで、ドロップダウンリストから [vMedia ポリシー (vMedia Policy)] を選択し、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 5** [ポリシー名 (Policy Name)] フィールドに名前を入力して [次へ (Next)] をクリックします。[サーバの現在の設定からポリシーを作成する (Create policy from current configuration of the server)] チェックボックスをオンにしてから、[次へ (Next)] をクリックすることもできます。この場合は、[サーバの詳細 (Server Details)] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでのタスクの実行については、[既存の設定からのポリシーの作成 \(4 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 6** [メイン (Main)] ダイアログボックスで、[vMedia の有効化 (Enable vMedia)] チェックボックスをオンにして vMedia を有効化し、vMedia の暗号化を有効にするために [仮想メディアの暗号化を有効にする (Enable Virtual Media Encryption)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 7** [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 8** [CDD vMedia マッピングの追加 (Add CDD vMedia Mapping)] チェックボックスをオンにして、CDD マッピングの詳細を入力します。
- ステップ 9** [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 10** [HDD vMedia マッピングの追加 (Add HDD vMedia Mapping)] チェックボックスをオンにして、HDD マッピングの詳細を入力します。
- ステップ 11** [送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 12** [送信結果 (Submit Result)] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。
- (注)
- 現在、Cisco UCS Director で [低電力 USB 状態 (Low Power USB State)] を設定することはできません。
  - vMedia ポリシーを適用すると、そのポリシーに vMedia マッピングが含まれていなくても、サーバで設定した既存の vMedia マッピングがすべて削除されます。
- 

## ゾーン分割ポリシーの作成

ゾーン分割ポリシーは、サーバに物理ドライブを割り当てるために使用されます。Cisco UCS C-Series ラックマウントサーバは、Cisco Management Controller (CMC) のシリアル接続 SCSI (SAS) ドライブのダイナミックストレージをサポートしています。このダイナミックストレージのサポートは、CMC の SAS Fabric Manager によって提供されます。ダイナミックストレージは次のオプションをサポートしています。

- サーバ 1 およびサーバ 2 への物理ディスクの割り当て
- シャーシ幅ホット スペア (RAID コントローラでのみサポート)
- 共有モード (HBA でのみサポート)
- 物理ディスクの割り当て解除
- SAS エクスパンダ プロパティの表示
- サーバへの物理ドライブの割り当て
- シャーシ幅ホット スペアとしての物理ドライブの移動
- 物理ドライブの割り当て解除

ディスク グループの各種プロパティの設定の詳細については、『[Cisco UCS C-Series Integrated Management Controller GUI Configuration Guide for C3260 Servers](#)』の「*Dynamic Storage*」の項を参照してください。

ゾーン分割ポリシーを作成するには、次の手順を実行します。

#### 手順

- 
- ステップ 1** メニューバーで、[ポリシー (Policies)] > [物理インフラストラクチャ ポリシー (Physical Infrastructure Policies)] > [ラックサーバ (Rack Server)] の順に選択します。
- ステップ 2** [ハードウェアポリシー (Hardware Policies)] タブを選択します。
- ステップ 3** [追加 (Add)] (+) をクリックします。
- ステップ 4** [追加 (Add)] ダイアログボックスで、ドロップダウンリストから [ゾーン分割ポリシー (Zoning Policy)] を選択し、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 5** [ポリシー名 (Policy Name)] フィールドに名前を入力します。  
[サーバの現在の設定からポリシーを作成する (Create policy from current configuration of the server)] チェックボックスをオンにしてから、[次へ (Next)] をクリックすることもできます。この場合は、[サーバの詳細 (Server Details)] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでのタスクの実行については、[既存の設定からのポリシーの作成](#)、(4 ページ) を参照してください。

(注) ゾーン分割ポリシーは、Cisco UCS 3260 ラックサーバのみに適用されます。そのため、UI の [Cisco UCS C3260] チェックボックスがデフォルトでオンになっています。

- ステップ 6 [ゾーン分割 (Zoning) ] ダイアログボックスで [ + ] をクリックして、サーバで設定するローカルディスクを追加します。
- ステップ 7 [ローカルディスクへのエントリの追加 (Add Entry to Local Disks) ] ダイアログボックスで、ローカルディスクが存在する [スロット番号 (Slot Number) ] を入力します。
- ステップ 8 ローカルディスクの所有権を割り当てる [所有権 (Ownership) ] などのローカルディスクの詳細を選択します。
- ステップ 9 あるサーバが所有するディスクを別のサーバに割り当てる場合は、[強制 (Force) ] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 10 [送信 (Submit) ] をクリックします。
- ステップ 11 [送信結果 (Submit Result) ] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。
- ステップ 12 [物理ドライブ電源ポリシーを変更する (Modify Physical Drive Power Policy) ] チェックボックスをオンにしてポリシーを設定します。
- ステップ 13 [物理ドライブ電源状態 (Physical Drive Power State) ] ドロップダウンリストから電源の状態を選択します。
- ステップ 14 [送信 (Submit) ] をクリックします。
- ステップ 15 [送信結果 (Submit Result) ] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。

## ポリシーの適用

既存のポリシーをサーバに適用する場合は、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1 メニューバーで、[ポリシー (Policies) ] > [物理インフラストラクチャポリシー (Physical Infrastructure Policies) ] > [ラックサーバ (Rack Server) ] の順に選択します。
- ステップ 2 [ハードウェアポリシー (Hardware Policies) ] タブを選択します。
- ステップ 3 適用するポリシーを左側のペインから選択します。
- ステップ 4 上部にある使用可能なオプションから [適用 (Apply) ] をクリックします。
- ステップ 5 [ポリシーの適用 (Apply Policy) ] ダイアログボックスで、ポリシーの適用対象が個別のサーバまたはラックサーバグループ全体かどうかに基づいて、ドロップダウンリストからサーバまたはサーバグループを選択します。
- ステップ 6 [選択 (Select) ] をクリックして、そのポリシーを適用するサーバグループまたはサーバを選択します。
- ステップ 7 [送信 (Submit) ] をクリックします。
- ステップ 8 [送信結果 (Submit Result) ] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。  
指定した一連のサーバにポリシーを適用するプロセスが開始されます。ポリシーのタイプやポリシーを適用するサーバへのネットワーク接続によっては、このプロセスに数分かかる場合があります。

### 次の作業

また、次のポリシー関連タスクを実行することもできます。

- 選択したポリシーの詳細を新しいポリシーにコピーするには、[複製 (Clone)] をクリックします。
- ポリシーが関連付けられたサーバのリストを表示するには、[適用ステータスの表示 (View Apply Status)] をクリックします。
- システムからポリシーを削除するには、[削除 (Delete)] をクリックします。

## ポリシーの削除

ポリシーは、ハードウェア プロファイルにマップされている場合は削除できません。

### 手順

- ステップ 1** メニューバーで、[ポリシー (Policies)] > [物理インフラストラクチャ ポリシー (Physical Infrastructure Policies)] > [ラックサーバ (Rack Server)] の順に選択します。
- ステップ 2** [ハードウェア ポリシー (Hardware Policies)] タブを選択します。
- ステップ 3** [削除 (Delete)] をクリックします。
- ステップ 4** [ポリシーの削除 (Delete Policy)] ダイアログボックスで、[選択 (Select)] をクリックし、削除するポリシーのチェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** [送信 (Submit)] をクリックします。

## ラックサーバ プロファイル

複数のポリシーを組み合わせてサーバプロファイルを形成します。たとえば、ラックサーバプロファイルの設定の詳細を複数のラックマウントサーバに適用できます。このサーバプロファイルを特定のラックマウントサーバに関連付けることができます。これは、サーバ間で設定の一貫性と再現性を実現するのに役立ちます。プロファイルを定義して使用することにより、類似した設定が多数のサーバ全体に適用されるため、一貫性、制御、予測可能性、および自動化を改善できます。

次のワークフローでは、Cisco UCS Director でサーバポリシーを使用する方法を示します。

- 1 サーバプロファイルを作成します。次のいずれかの方法でポリシーを作成できます。
  - a 新しいプロファイルを作成します。新しいポリシーの作成については、[サーバプロファイルの作成](#)、(34 ページ) を参照してください。

- b サーバの既存の設定からプロファイルを作成します。サーバの既存の設定からプロファイルを作成する方法については、[既存の設定からのプロファイルの作成](#)、(35 ページ) を参照してください。
- 2 サーバにプロファイルを適用します。プロファイルの適用方法については、[サーバプロファイルの適用](#)、(37 ページ) を参照してください。
- 3 プロファイルに関する次のタスクを実行できます。
  - a 編集 (Edit)
  - b 削除 (Delete)
  - c 複製 (Clone)

特定のプロファイルにマッピングされたサーバのリスト、およびこのプロファイルに関連付けられたポリシーの詳細を表示することもできます。これらのタスクの実行については、[サーバプロファイルの共通タスク](#)、(36 ページ) を参照してください。

## サーバ プロファイルの作成

サーバ プロファイルを作成する場合は、次の手順を実行します。

### 手順

- 
- ステップ 1** メニュー バーで、[ポリシー (Policies)] > [物理インフラストラクチャ ポリシー (Physical Infrastructure Policies)] > [ラック サーバ (Rack Server)] の順に選択します。
  - ステップ 2** [ハードウェア プロファイル (Hardware Profiles)] タブを選択します。
  - ステップ 3** [追加 (Add)] をクリックします。
  - ステップ 4** [ハードウェア プロファイルの作成 (Create Hardware Profile)] ダイアログボックスの [プロファイル名 (Profile Name)] フィールドで、作成するプロファイルの名前を入力します。
  - ステップ 5** [次へ (Next)] をクリックするか、[サーバの現在の設定からプロファイルを作成する (Create profile from current configuration of the server)] チェックボックスをオンにしてから [次へ (Next)] をクリックします。  
[サーバの詳細 (Server Details)] ペインでタスクを実行するには、[既存の設定からのプロファイルの作成](#)、(35 ページ) を参照してください。
  - ステップ 6** [プロファイルエンティティ (Profile Entities)] ダイアログボックスで、[+] をクリックしてプロファイル エントリを追加します。  
編集および削除のアイコンをクリックして、既存のエントリを編集したり削除したりすることもできます。

- ステップ 7** [プロファイル名へのエントリの追加 (Add Entry to Profile Name) ] ダイアログボックスで、[ポリシータイプ (Policy Type) ] を選択します。
- ステップ 8** [ポリシー名 (Policy Name) ] ドロップダウンリストからポリシー名を選択します。このリストには作成済みのポリシーの名前が表示されます。  
[ポリシー名 (Policy Name) ] の横にある [+] をクリックすると、先に選択したポリシー タイプに基づいて新しいポリシーを作成できます。ポリシーの作成の詳細については、[サーバポリシーの作成](#)、(2 ページ) を参照してください。
- ステップ 9** [送信 (Submit) ] をクリックします。
- ステップ 10** [送信結果 (Submit Result) ] 確認ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。
- ステップ 11** [プロファイルエンティティ (Profile Entities) ] ダイアログボックスで、[送信 (Submit) ] をクリックします。
- ステップ 12** [送信結果 (Submit Result) ] 確認ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。

### 次の作業

また、プロファイルを編集、削除、複製したり、選択したプロファイルにマッピングされているサーバを表示したりすることもできます。これらのタスクの実行については次を参照してください。[サーバプロファイルの共通タスク](#)、(36 ページ)

## 既存の設定からのプロファイルの作成

すでに設定済みのサーバを使用してプロファイルを作成することもできます。サーバの既存の設定を再利用することで、類似した設定の作成にかかる時間と手間を削減できます。



- (注) 既存の設定からプロファイルを作成する場合でも、パスワードフィールドの値はサーバから取得されません。

サーバの既存の設定からプロファイルを作成する場合は、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1** メニューバーで、[ポリシー (Policies) ] > [物理インフラストラクチャ ポリシー (Physical Infrastructure Policies) ] > [ラック サーバ (Rack Server) ] の順に選択します。
- ステップ 2** [ハードウェア プロファイル (Hardware Profiles) ] タブを選択します。
- ステップ 3** [追加 (Add) ] をクリックします。
- ステップ 4** [プロファイル名 (Profile Name) ] フィールドにプロファイルの名前を入力します。
- ステップ 5** [サーバの現在の設定からプロファイルを作成する (Create profile from current configuration of the server) ] チェックボックスをオンにします。次の方法でサーバの詳細を使用できます。

- a) [手動でサーバの詳細を入力する (Enter Server Details Manually)] チェックボックスをオンにして、次のフィールドに値を入力します。
- 1 [サーバ IP (Server IP)] フィールドに IP アドレスを入力します。
  - 2 [クレデンシャルポリシーの使用 (Use Credential Policy)] チェックボックスをオンにして既存のポリシーを選択し、[クレデンシャルポリシー (Credential Policy)] ドロップダウンリストからポリシーを選択するか、[クレデンシャルポリシー (Credential Policy)] ドロップダウンリストの横にある [+] をクリックして、[クレデンシャルポリシー追加フォーム (Credential Policy Add Form)] ダイアログボックスで詳細を入力して新しいポリシーを作成します。
  - 3 [ユーザ名 (User Name)] フィールドにサーバのログイン名を入力します。
  - 4 [パスワード (Password)] フィールドにサーバのログインパスワードを入力します。
  - 5 [プロトコル (Protocol)] ドロップダウンリストから [http] または [https] を選択します。
  - 6 [ポート (Port)] フィールドに、選択したプロトコルに関連付けられたポート番号を入力します。
  - 7 [選択 (Select)] をクリックしてポリシーを選択し、[選択 (Select)] をクリックします。
- b) [選択 (Select)] をクリックして、設定を取得するサーバを選択します。
- c) [選択 (Select)] をクリックしてポリシーを選択し、[選択 (Select)] をクリックします。

**ステップ 6** [次へ (Next)] をクリックします。

**ステップ 7** [プロファイルエンティティ (Profile Entities)] ダイアログボックスで、[+] をクリックしてプロファイル名にエントリを追加します。  
[プロファイル名 (Profile Name)] テーブルから既存のエントリを削除するには、[X] をクリックします。

**ステップ 8** [送信 (Submit)] をクリックします。

**ステップ 9** [送信結果 (Submit Result)] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。

## サーバプロファイルの共通タスク

既存のプロファイルのサーバマッピングの詳細を編集、削除、複製、または表示するには、次の手順を実行します。

## 手順

- 
- ステップ 1** メニューバーで、[ポリシー (Policies)] > [物理インフラストラクチャ ポリシー (Physical Infrastructure Policies)] > [ラック サーバ (Rack Server)] の順に選択します。
- ステップ 2** [ハードウェア プロファイル (Hardware Profiles)] タブを選択します。
- ステップ 3** 左側ペインの [ハードウェア プロファイル (Hardware Profile)] を展開して、プロファイルを選択します。
- ステップ 4** (任意) プロファイルを削除するには、[削除 (Delete)] をクリックして次の手順を実行します。
- [プロファイルの削除 (Delete Profile)] ダイアログボックスで [選択 (Select)] をクリックします。
  - 1 つまたは複数のプロファイルを選択します。
  - [選択 (Select)] をクリックします。
  - [送信 (Submit)] をクリックします。
- サーバに関連付けられたプロファイルは削除できません。削除する前に別のプロファイルをサーバに関連付ける必要があります。
- ステップ 5** (任意) プロファイルを変更するには、プロファイルを選択し、[編集 (Edit)] をクリックして必要なプロパティを変更します。
- プロファイル名を変更する場合は、すでに存在する名前を指定しないようにしてください。
- ステップ 6** (任意) 既存のプロファイルの詳細を新しいプロファイルにコピーするには、[複製 (Clone)] をクリックします。
- ステップ 7** (任意) プロファイルをサーバまたはサーバグループに適用するには、[適用 (Apply)] をクリックします。プロファイルの適用方法については、[サーバプロファイルの適用](#)、(37 ページ) を参照してください。
- ステップ 8** [詳細の表示 (View Details)] をクリックすると、適用したプロファイルのステータス、プロファイルを適用したサーバの詳細など、選択したプロファイルの詳細が表示されます。プロファイルが正常に適用されていない場合は、[ステータスメッセージ (Status Message)] カラムにエラーメッセージが表示されます。
- ステップ 9** 状況に応じて、[送信 (Submit)] または [閉じる (Close)] をクリックします。
- 

## サーバプロファイルの適用

サーバプロファイルをラック サーバに適用する場合は、次の手順を実行します。

## 手順

---

- ステップ 1** メニューバーで、[ポリシー (Policies)] > [物理インフラストラクチャ ポリシー (Physical Infrastructure Policies)] > [ラック サーバ (Rack Server)] の順に選択します。
- ステップ 2** [ハードウェア プロファイル (Hardware Profiles)] タブを選択します。
- ステップ 3** 既存のサーバ プロファイルを選択し、[適用 (Apply)] をクリックします。
- ステップ 4** [プロファイルの適用 (Apply Profile)] ダイアログボックスで、プロファイルの適用対象が個別のサーバまたはラック サーバ グループ全体かどうかに基づいて、ドロップダウン リストからサーバまたはサーバ グループを選択します。
- ステップ 5** [選択 (Select)] をクリックして、そのプロファイルを適用するサーバグループまたはサーバを選択します。
- ステップ 6** [送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 7** [送信結果 (Submit Result)] 確認ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。指定した一連のサーバにプロファイルを適用するプロセスが開始されます。プロファイルタイプ、およびプロファイルを適用するサーバへのネットワーク接続によっては、このプロセスに数分かかる場合があります。
-